

## 特集／第27回環境保全・公害防止研究発表会

# 第27回環境保全・公害防止研究発表会の概要

### 静岡県環境衛生科学研究所

環境庁、全国公害研協議会および静岡県の主催により第27回環境保全・公害防止研究発表会が平成12年11月21日(火)、22日(水)の両日にわたって静岡市内の静岡県立大学で開催されました。

第1日目は主催者のあいさつに続いて基調講演およびパネルディスカッション、第2日目は一般研究発表が行われました。会員(57機関)、その他行政機関および民間等から、第1日目が約300名、第2日目が約200名の延べ500名の参加があり、成功裡に終了しました。2日間の日程は、第27回環境保全・公害防止研究発表会日程表のとおりです。

第1日目には、主催者を代表して太田環境庁企画調整局長(勝又環境研究技術課長が代読)、全国公害研協議会の土屋会長代行および静岡県の柴副知事からそれぞれあいさつがありました。

太田局長はあいさつの中で、

「今日の環境問題は廃棄物やダイオキシン、環境ホルモン、さらに地球温暖化や生物多様性の減少といった問題まで、非常に幅広くかつ複雑化・多様化してきている。このうち地球温暖化についてはハーグで国連気候変動枠組条約第6回締約国会議(COP6)が開催されており、環境庁としても京都議定書の発効に向けた合意が得られるよう努力している。

また、循環型社会の形成については先の通常国会において循環型社会関連6法が成立した。来年には廃棄物行政が環境省に一元化されることを踏まえ、これまで以上にリーダーシップを発揮し、循環型社会の形成を確実に進めていきたいと考えている。

一方、重金属や有機塩素化合物による土壌や地下水の汚染等が顕在化しており、これらの従来型の問題への対応もゆるがせにできない。とくに環



主催者を代表して太田企画調整局長のあいさつを代読される勝又環境研究技術課長



主催者あいさつをされる土屋全国公害研協議会会長代行



開催県を代表してあいさつをする柴静岡県副知事

## 第27回環境保全・公害防止研究発表会日程表

会場：静岡県立大学

講 堂										
11月21日 (火)	<p>○開会(13:00~13:15) 開 会 宣 言 静岡県環境衛生科学研究所長 久保田昭彦 主催者あいさつ 環境庁企画調整局長 太田 義武(代読 勝又環境研究技術課長) 全国公害研協議会会長代行 土屋 隆夫 静岡県副知事 柴 順三郎</p> <p>○基調講演(13:20~14:20) 演 題 「微生物による環境修復」 講 師 矢木 修身(東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター教授 (併任)環境庁国立環境研究所地域環境研究グループ総合研究官) 座 長 土屋 隆夫(全国公害研協議会会長代行 東京都環境科学研究所長)</p> <p>○パネルディスカッション(14:30~17:15) テ ー マ 「生物機能を利用した環境修復」 コーディネーター 岡田 光正(広島大学工学部環境基礎学講座教授) パ ネ ラ ー 藤江 幸一(豊橋技術科学大学エコロジー工学系・教授) 岩堀 恵祐(静岡県立大学環境科学研究所助教授(大学院兼務)) 高田 秀重(東京農工大学農学部環境資源科学科助教授) 片山 新太(名古屋大学難処理人工物研究センター教授) コメンテーター 矢木 修身</p> <p>○イブニングシンポジウム(17:45~19:45) 会場/管理棟地階食堂</p>									
	<p>○研究発表会(9:30~16:50)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>第1会場/看護学部棟4階13411講義室</th> <th>第2会場/経営情報学部棟1階4111講義室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>○大気Ⅰ(9:30~10:15) 浮遊粉じん・浮遊粒子状物質</p> <p>○大気Ⅱ(10:15~11:00) 大気汚染, 有害大気</p> <p>○大気Ⅲ(11:05~12:00) 濃度分布, 酸性雨</p> </td> <td> <p>○水質Ⅰ(9:30~10:45) 水質・底質調査</p> <p>○水質Ⅱ(10:45~12:00) 水質浄化, 干潟</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2">休 憩(12:00~13:00)</td> </tr> <tr> <td> <p>○大気Ⅳ(13:00~13:30) 騒音・悪臭</p> <p>○ダイオキシンⅠ(13:30~14:00) 前処理, 分析方法</p> <p>○ダイオキシンⅡ(14:00~15:15) 分析精度, 解析</p> <p>○快適環境(15:20~16:05) 大気浄化, ビオトープ</p> <p>○廃棄物・その他(16:05~16:50)</p> </td> <td> <p>○水生生物(13:00~14:15) 生息環境, 魚類</p> <p>○微量化学物質Ⅰ(14:20~15:05) 分析方法</p> <p>○微量化学物質Ⅱ(15:10~15:55) 環境影響</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>○閉会(16:50~17:00) 第1会場/看護学部棟4階13411講義室 閉会あいさつ 環境庁企画調整局環境研究技術課長 勝又 宏 宮城県保健環境センター副所長 白石 廣行</p> </td> </tr> </tbody> </table>	第1会場/看護学部棟4階13411講義室	第2会場/経営情報学部棟1階4111講義室	<p>○大気Ⅰ(9:30~10:15) 浮遊粉じん・浮遊粒子状物質</p> <p>○大気Ⅱ(10:15~11:00) 大気汚染, 有害大気</p> <p>○大気Ⅲ(11:05~12:00) 濃度分布, 酸性雨</p>	<p>○水質Ⅰ(9:30~10:45) 水質・底質調査</p> <p>○水質Ⅱ(10:45~12:00) 水質浄化, 干潟</p>	休 憩(12:00~13:00)		<p>○大気Ⅳ(13:00~13:30) 騒音・悪臭</p> <p>○ダイオキシンⅠ(13:30~14:00) 前処理, 分析方法</p> <p>○ダイオキシンⅡ(14:00~15:15) 分析精度, 解析</p> <p>○快適環境(15:20~16:05) 大気浄化, ビオトープ</p> <p>○廃棄物・その他(16:05~16:50)</p>	<p>○水生生物(13:00~14:15) 生息環境, 魚類</p> <p>○微量化学物質Ⅰ(14:20~15:05) 分析方法</p> <p>○微量化学物質Ⅱ(15:10~15:55) 環境影響</p>	<p>○閉会(16:50~17:00) 第1会場/看護学部棟4階13411講義室 閉会あいさつ 環境庁企画調整局環境研究技術課長 勝又 宏 宮城県保健環境センター副所長 白石 廣行</p>
第1会場/看護学部棟4階13411講義室	第2会場/経営情報学部棟1階4111講義室									
<p>○大気Ⅰ(9:30~10:15) 浮遊粉じん・浮遊粒子状物質</p> <p>○大気Ⅱ(10:15~11:00) 大気汚染, 有害大気</p> <p>○大気Ⅲ(11:05~12:00) 濃度分布, 酸性雨</p>	<p>○水質Ⅰ(9:30~10:45) 水質・底質調査</p> <p>○水質Ⅱ(10:45~12:00) 水質浄化, 干潟</p>									
休 憩(12:00~13:00)										
<p>○大気Ⅳ(13:00~13:30) 騒音・悪臭</p> <p>○ダイオキシンⅠ(13:30~14:00) 前処理, 分析方法</p> <p>○ダイオキシンⅡ(14:00~15:15) 分析精度, 解析</p> <p>○快適環境(15:20~16:05) 大気浄化, ビオトープ</p> <p>○廃棄物・その他(16:05~16:50)</p>	<p>○水生生物(13:00~14:15) 生息環境, 魚類</p> <p>○微量化学物質Ⅰ(14:20~15:05) 分析方法</p> <p>○微量化学物質Ⅱ(15:10~15:55) 環境影響</p>									
<p>○閉会(16:50~17:00) 第1会場/看護学部棟4階13411講義室 閉会あいさつ 環境庁企画調整局環境研究技術課長 勝又 宏 宮城県保健環境センター副所長 白石 廣行</p>										
11月22日 (水)										

境修復の問題は今後の大きな課題になると考えており、このような観点から本日は、最近注目を集めている生物を用いる環境修復、バイオレメディエーションに焦点を当てることにした。こういった新しい技術は正と負の両面があり、負の側面を

可能な限り限定し、正の側面を最大限活かすにはどうすればよいか、本日のセッションがこれらの問題を考える一助になればと考えている」と話されました。

次に全国公害研協議会の土屋会長代行は、

「本日は生物を利用した環境修復ということに関して多面的なサイドから各先生の話聞くことができ、地方公害研究所職員にとってたいへん参考になると期待している。

また明日は各研究機関から計40題の発表がされる。今年はとくにダイオキシンの測定に関する研究の発表を呼びかけたところ、ダイオキシン関連の発表が5題あり、みなさんの参考になると思う」ということを強調されました。

また、静岡県の柴副知事は、「静岡県では『快適空間静岡の創造』を県づくりの目標に掲げ、自然と共生し、環境と調和する社会の構築に向けた施策を展開している。とくに日本の象徴である富士山などの自然環境を守り、次の世代に引き継いでいくことが責務であると考えている。本日のシンポジウムが富士山のトイレ対策等にも役立つものと期待している」と述べました。

第2日目の発表は以下のとおりです。

#### 第1会場：看護学部棟4階13411講義室

#### ○大気Ⅰ（浮遊粉じん・浮遊粒子状物質）

[9:30~10:15]

座長：伊藤 功（栃木県保健環境センター）

1 B-1 ケミカルマスバランス法による大気中浮遊粉じんの発生源寄与率の推定

吉村 陽ほか（兵庫県立公害研究所）

1 B-2 都市およびその近郊域における浮遊粒子状物質とPM2.5の質量濃度の測定

大塚 治子ほか（愛知県環境調査センター）

1 B-3 一般環境大気中に浮遊するアスベスト繊維等の種類及び濃度について

林 恭子ほか（栃木県保健環境センター）

#### ○大気Ⅱ（大気汚染、有害大気）[10:15~11:00]

座長：前嶋 孝明（静岡県環境衛生科学研究所）

1 B-4 川崎市における大気中揮発性有機化合物濃度

安藤 仁ほか（川崎市公害研究所）

1 B-5 大気中低沸点有機塩素化合物濃度の経年変化

大場 和生ほか（名古屋市環境科学研究所）

1 B-6 富士地域の有害大気汚染物質の濃度分布について

房家 正博ほか（静岡県環境衛生科学研究所）

#### ○大気Ⅲ（濃度分布、酸性雨）[11:05~12:00]

座長：斉藤 勝美（秋田県環境センター）

1 B-7 フィリピン、ケソン市の大気汚染状況について

加藤 進（三重県保健環境研究所）

1 B-8-1 大気常時監視測定局のグループ化に関する研究

篠原英二郎ほか（静岡県環境衛生科学研究所）

1 B-8-2 三宅島噴火に伴う静岡県下の大気汚染実態

篠原英二郎ほか（静岡県環境衛生科学研究所）

1 B-9 宮城県における全県一斉酸性雨調査結果—海塩粒子影響の形態について—

佐久間 隆ほか（宮城県保健環境センター）

#### ○大気Ⅳ（騒音・悪臭）[13:00~13:30]

座長：佐々木裕子（東京都環境科学研究所）

1 B-10  $L_{Aeq}$ , 1 min 及び  $L_{Aeq}$ , 10min による愛知県の環境騒音（一般地域）について

中矢 忠勝（愛知県環境調査センター）

1 B-11 悪臭物質の分解除去への光触媒の適用に関する研究（第2報）（動物舎への実証実験）

合田 順一ほか（香川県環境研究センター）

#### ○ダイオキシンⅠ（前処理、分析方法）

[13:30~14:00]

座長：中野 武（兵庫県立公害研究所）

1 B-12 ダイオキシン類前処理操作の簡素化

松村 千里ほか（兵庫県立公害研究所）

1 B-13 高速溶媒抽出及び自動ソックスレー抽出のダイオキシン類への適用

種岡 裕ほか（新潟県保健環境科学研究所）

#### ○ダイオキシンⅡ（分析精度、解析）

[14:00~15:15]

座長：昆野 信也（埼玉県環境科学国際センタ

- 一)
- 1 A—14 ダイオキシン類の分析精度の確保と迅速化の試みについて  
飯村 文成ほか（東京都環境科学研究所）
- 1 A—15 ダイオキシン類の異性体分析と起源推定  
中野 武ほか（兵庫県立公害研究所）
- 1 B—16 埼玉県環境大気中のダイオキシン類の組成解析  
杉崎 三男ほか（埼玉県環境科学国際センター）

### ○快適環境（大気浄化，ピオトープ）

[15：20～16：05]

座長：藤本 千鶴（千葉県水質保全研究所）

- 1 B—17 富山県における樹木の大气汚染物質吸収能力と気象条件との関係  
神保 高之ほか（富山県環境科学センター）
- 1 B—18 コンテナガーデンを利用したミニピオトープの試み  
鵜鷹 圭三ほか（京都府保健環境研究所）
- 1 B—19 環境情報総合処理システムの構築について  
八幡 仁志ほか（福井県環境科学センター）

### ○廃棄物・その他 [16：05～16：50]

座長：笹井 春雄（長野県衛生公害研究所）

- 1 B—20 低公害ごみ収集車からの大气汚染物質の排出  
及川 智ほか（東京都環境科学研究所）
- 1 B—21 廃棄物充填カラム屋外実験における溶出水質特性  
川又 秀一ほか（長野県衛生公害研究所）
- 1 B—22 事業所における廃棄物焼却の実態調査結果  
三好 郭仁（浜松市環境部環境保全課）

第2会場：経営情報学部棟1階4111講義室

### ○水質Ⅰ（水質・底質調査）[9：30～10：45]

座長：根岸 正美（茨城県公害技術センター）

- 2 B—1 船形連峰の水環境—渓流水の水質形成

### 要因一

- 清野 茂ほか（宮城県保健環境センター）
- 2 A—2 北海道沿岸海域の環境質調査について  
福山 龍次ほか（北海道環境科学研究所センター）
- 2 A—3 畑地施肥量削減に伴う周辺水域の水質変化—茶畑の事例—  
松尾 宏ほか（福岡県保健環境研究所）

### ○水質Ⅱ（水質浄化，干潟）[10：45～12：00]

座長：味岡 嘉輝（静岡県環境衛生科学研究所）

- 2 A—4 分画法によるヨシを用いた潟水浄化の検討  
小森 正樹（石川県保健環境センター）
- 2 B—5 干潟造成とモニタリング  
今富 幸也ほか（山口県環境保健研究センター）
- 2 B—6 四万十川の泡現象に関する調査結果について  
藤村 茂夫ほか（高知県環境研究センター）
- 2 B—7 那珂川水系における大腸菌群に関する調査結果（第1報）  
福田 孝子ほか（栃木県保健環境センター）

### ○水生生物（生息環境，魚類）[13：00～14：15]

座長：山本 桂（静岡市衛生試験所）

- 2 B—8 日本産カゲロウ類のチェックリスト  
石綿 進一（神奈川県環境科学センター）
- 2 B—9 吉野川における内部生産について  
高島 京子ほか（徳島県保健環境センター）
- 2 A—10 十和田湖の透明度に及ぼす魚類の影響（1995～97）  
三上 一ほか（青森県環境保健センター）
- 2 A—11 宍道湖魚類相の長期的変化  
石飛 裕（島根県保健環境科学研究所）

### ○微量化学物質Ⅰ（分析方法）[14：20～15：05]

座長：山辺 真一（岡山県環境保健センター）

- 2 B—12 HPLCを用いる水中のN-メチルカルバメート系農薬及びそれらの代謝物の同時分析  
藤本 千鶴ほか（千葉県水質保全研究所）
- 2 B—13 広島市の河川水のアルキルフェノール類とビスフェノール A の同時分析  
関川 恵子ほか（広島市衛生研究所）
- 2 B—14 ICP-MSによる事業所排水分析法の検討  
藤波 洋征ほか（群馬県衛生環境研究所）
- 2 B—15 内分泌攪乱化学物質の単細胞緑藻クラミドモナスに対する増殖影響  
田中 仁志（埼玉県環境科学国際センター）
- 2 B—16 土壌からの鉛の溶出におけるフミン質の効果  
上田 英弘ほか（福岡市保健環境研究所）
- 2 B—17 雨天時高速道路流出水における汚濁負荷の流出特性  
新矢 将尚ほか（大阪市立環境科学研究所）
- 微量化学物質Ⅱ（環境影響）[15：10～15：55]  
座長：松尾 宏（福岡県保健環境研究所）